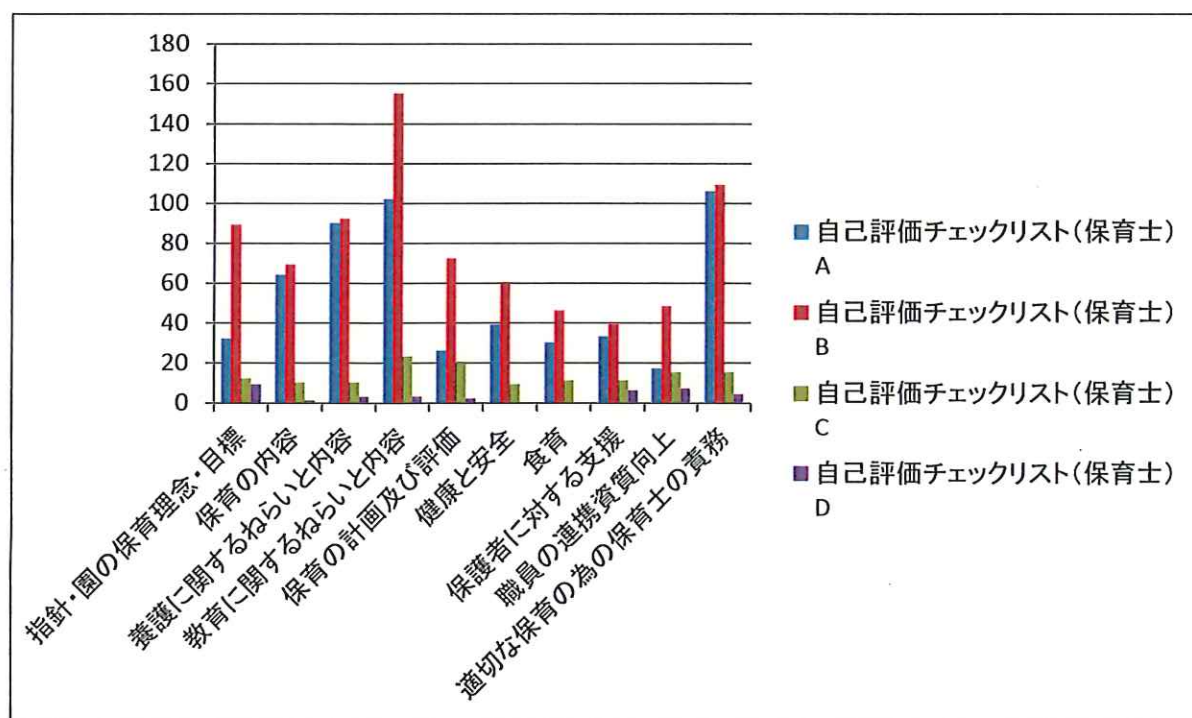


自己評価チェックリスト(保育士)

	A	B	C	D
指針・園の保育理念・目標	32	89	12	9
保育の内容	64	69	10	1
養護に関するねらいと内容	90	92	10	3
教育に関するねらいと内容	102	155	23	3
保育の計画及び評価	26	72	20	2
健康と安全	39	60	9	0
食育	30	46	11	0
保護者に対する支援	33	39	11	6
職員の連携資質向上	17	48	15	7
適切な保育の為の保育士の責務	106	109	15	4

主任保育士以下、看護師、調理員全てチェックし、園全体の保育の向上と子ども一人ひとりの人権を尊重し、愛情を持って保育に当たる事を目指した。チェックする事での学びは一人ひとりが受け止め保育に活かす。集計は保育士のみ記載。



自己評価チェックリストA
 自己評価チェックリストB
 自己評価チェックリストC
 自己評価チェックリストD

理解して十分にとりこんでいる
 概ね取り組んでいる
 理解が不足し十分ではない
 取り組めていない

■今年度の評価点

- ・子どもの声を聞いて、取り入れた。
- ・一人一人に丁寧に関わることができた。
- ・職員間の報連相が密にできた。
- ・保育指針を見て、10の姿を少しずつ頭に入れて関わることができた。
- ・クッキングなどを通して、食への興味・関心を高めることができた。
- ・子どもの小さな変化にも気づけるように意識した。
- ・子どもとの関わり増やし、信頼関係を築けたと思う。
- ・複数担任で、役割分担ができ保育も慌てることなく、ゆったりと進めることができた。
- ・担当の子どもに限らず、どの子どもにも声をかけて安心できるようにした。
- ・安全な環境設定や体調管理を徹底できた。
- ・保護者との密なコミュニケーションで信頼を築いた。
- ・発達に合わせた玩具の用意など、主体性を引き出す遊びの工夫に注力できた。
- ・喜んで登園できるようにした。
- ・バイタル面とメンタル面には十分に気を配るようにした。
- ・活動を通して発達・成長を促すことができた。
- ・日々の保育の中の気付きや反省点を職員間で考え、翌日の保育に活かすことができた。

■今年度の課題点

- ・行事前の忙しい時期などは、保育者の声が優先になっていた。
- ・余裕がないことがあった。
- ・子どもの興味や発達を捉えた遊びの提供には、これからまだまだ保育者自身の学びも必要。
玩具も毎年購入してもらい、年間を通して飽きることなく一人ひとりが集中し遊べる環境を整える事を目指している。
- ・個々の対応を意識すると、全体の活動が遅れてしまう。
- ・保護者や職員との関わりに苦手意識があり、コミュニケーションをとることが少なかった。
- ・子どもへの対応に自信を持たず、十分な関わりが出来なかった。
- ・特性のある子どもへの対応の難しさを感じた。
- ・「ダメ」「しないで」等の、制止する言葉かけが多かった。
- ・担任が少ないと、散歩や園周遊びで制限しなければならないことがあった。
- ・遊びの充実を優先した一方で、指針に基づく「教育的ねらい」の深掘りや、計画への反映が不十分だった。
- ・自分で選んで遊べる環境から、安全面への配慮からその環境が無くなってしまう。
- ・子どもたちをせかしてしまう。
- ・共通理解が不足していた。

■次年度の改善点

- ・早めの取り組みを行い、余裕を持てるようにしていく。
- ・言葉遣いに気を付ける。
- ・発達に合った遊びや、玩具の考慮や見直し。
- ・一人一人丁寧な保育を心がける。
- ・不適切保育に気を付け、声の大きさや声掛け等に配慮する。
- ・他のクラスと保育に関して相談するなどして、保育について学びを深めていく。
- ・大変な時は他の職員に協力をお願いする。
- ・子どもの動きを予測し、事故やケガのないようにする。
- ・専門職としての責務を自覚し、日々の保育を客観的に振り返ることで、保育の更なる向上を目指す。
- ・活動の「ねらい」を明確にした保育を実践する。
- ・コドモンなどで情報を発信することでも、保護者に保育の理解や安心につなげる。
- ・子どもの気持ちを受け止め、丁寧に関わる。
- ・保育目標、方針について、なぜそうするのか指針等につながる意味を全担任に伝え、理解してもらった上で協力し合う。

〈まとめ〉

課題・目標について個々のかかわりを大事にしたい、発達に合った配慮などの声が多かった反面、余裕が持てず丁寧な声掛けが出来なかった、職員間の情報共有・共通理解が不足しているなどの反省点がみられた。

自己評価を行うことは、日々の保育における自分自身の課題や強みを客観的に見つめ直し、成長へとつなげる重要なステップである。また、自己評価によって自分の保育実践を振り返り、改善点を具体的に把握し、子どもたちへのかかわり方や保育の質の向上を目指していけるようにしたい。